古文単語 活用形から見出し語へ ⑤

高校／本文から見出し語の形を探して、活用を答える

名前 _____

日付 _____

右の枠の見出し語が、左の本文の中で活用した形で出ています。その語を探して――線を引きなさい。
右の2つの枠に、左から順にその語の活用の種類・活用形を書きなさい。見出し語の活用形は本文に1か所だけです。
この紙にも活用表はありません。活用形は、その語のすぐ下に続く語を手がかりに決めます。
――線の語のすぐ下が「。」で文が終わるときは、終止形です。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

1 帝はた、ましてえ忍びあへたまはず、思し紛るる折もありつる昔のこと、とりかへしかなしく思さる。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
かなし		

2 七つになりたまへば、読書始めなどせさせたまひて、世に知らず聡う賢くおはすれば、あまり恐ろしきまで御覧ず。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
かしこし		

3 人皆退きて、まめならん人一人を荒籠に載せすゑて、綱をかまへて……（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形
まめなり		

4 この聖、声うちゆがみあらあらしくて、聖教のこまやかなる理、いと弁へずもやと思ひしに、……（徒然草・第百四十一段）

見出し語	活用の種類	活用形
こまやかなり		

5 偏に高き官位を望むも、次におろかなり。（徒然草・第三十八段）

見出し語	活用の種類	活用形
おろかなり		

6 かつをといふ魚は、かの境には双なきものにて、この頃もてなすものなり。（徒然草・第百十九段）

見出し語	活用の種類	活用形
もてなす		

7 ……心地にわづらひて、まかでなむとしたまふを、暇さらに許させたまはず。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
わづらふ		

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます